

なりました。

東照宮の造営

慶安元年（1648年）日光東照宮を参拝の折、三代將軍徳川家光は、家康と鳳来寺の因縁を知り、鳳来寺に東照宮を造営するように命じられました。慶安四年（1651年）に完成し、四代將軍家綱は名代として小笠原忠知を遣わされ、江戸城紅葉山から遷された徳川家康の尊像が奉祀され、寛永寺の僧が導士を勤め、鳳来寺衆徒をはじめ延暦寺・寛永寺から多数の僧が参加し、東照宮遷宮の式が盛大に執り行われました。



鳳来寺本堂(昭和49年再建)

総本山鳳来寺

〒441-1944 愛知県新城市門谷字鳳来寺一番地

電話 0536-35-1004

FAX 0536-35-0604

E-mail kokuzo@gold.ocn.ne.jp

総本山鳳来寺



日本随一の薬師霊場

鳳来寺

百済の国に渡り仏教を学んできた利修仙人が、この山に入り修行されていました。大宝元年（701年）に病気になられた文武天皇は、夢のお告げで利修仙人をお召しになるため、草鹿砥公宣を遣わされました。仙人は鳳凰の背に乗って参内し、七日間にわたり天皇を加持したので病が癒えました。その褒美に、仏堂の造営を許可され、「鳳来寺」の寺号を与えました。寺の整備は大宝三年（703年）に終り、後に光明皇后の筆による「鳳来寺」の額を賜りました。

峯乃薬師

仙人は山中の杉の七本の大木に天童が天空より礼拝しているのを見て、その霊徳を感じ、その内の一本を切り倒して一刀三礼のもと薬師如来を造立されました。「峯乃薬師」の名で知られ、四囲の人々から篤い信仰をうけてきました。

源頼朝と鳳来寺

平治の乱（1160年）に敗れ源義朝とともに東国に逃れようとした頼朝は、渋谷金王丸に護られて三年間鳳来寺にかくまわれたが、幕府を開いてからその恩に謝するため

七堂伽藍を造営されました。その中の三重塔は梶原景時が奉行となり建立されました。また初代三河守護の安達盛長が造営した常行堂は、「三河七伽藍」の随一に数えられました。元和六年（1620年）の大火災で焼失するまで、この常行堂で頼朝追善のため毎月阿弥陀経が読経されていました。

徳川家康と鳳来寺

家康の父、松平広忠は男子が授かるようにと、子授のご利益で評判の高かった鳳来寺に祈願されました。すると、ある夜、家康の母、於大の方の枕元に東方から一人の老翁が現れ、金の玉を授けられる夢を見られ、懐妊されて、壬寅の年の寅の月の寅の日の寅の時刻、天文十一年（1542年）12月26日男児が誕生しました。これが後の徳川家康であります。

不思議なことに、本尊薬師如来の脇仏の十二神将のうち寅の方角を守護する真達羅大将（寅童子）像が、家康の誕生とともにたちまちに姿を消しました。そして後年、家康が死去した際に、無くなっていたはずの寅童子がいつのまにか元場所に戻っていました。こうして薬師如来の申し子である家康は、寅童子の化身であると、いわれるように